

# 女性人工股関節全置換術患者の術前後の歩容の自己評価モデルの開発：構造方程式モデリングを用いた分析

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-01-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/00065141">http://hdl.handle.net/2297/00065141</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



## 博士論文審査結果報告書

学籍番号 1429022021

氏名 松本 智里

論文審査員

主査(職名) 中谷 壽男(教授)



副査(職名) 加藤 真由美(教授)



副査(職名) 田中 浩二(教授)



論文題名 女性人工股関節全置換術患者の術前後の歩容の自己評価モデルの開発

## 論文審査結果

## 【論文内容の要旨】

人工股関節全置換術(Total Hip Arthroplasty, THA)の適応患者は、疼痛、脚長差、歩行能力の低下等により跛行が生じることから歩容の自己評価は低下しやすい。研究目的は、術前および術後の歩容の自己評価モデルを開発し、女性 THA 患者の歩容の自己評価が何に影響され、何に影響を与えるのかを明らかにし、看護への示唆を得ること。対象者は THA 目的で入院した女性患者 98 名であった。研究デザインは仮説検証型研究であり、基本属性、身体的側面、心理社会的側面を変数とし縦断的データ収集から仮説モデルを検証し、要因を抽出した。データは無記名自記式質問紙と診療録から術前と術後 6 か月後に収集した。分析方法は構造方程式モデリング法であった。本研究は、金沢大学医学倫理審査委員会から承認を得て実施した(承認番号 701-1)。回収率は 85.7%(有効回答率 81.6%)で、平均年齢は 64.3±9.3 歳、有職者は 51.2%であった。術前モデルは、適合度が  $\chi^2=14.642$ (df=11, p=.199), Comparative fit index(CFI)=.936, Root mean square error of approximation(RMSEA)=.065 であった。術前の歩容の自己評価が影響を受けていたのは、年齢( $\beta=.19$ , p<.05), 歩行能力( $\beta=.33$ , p<.001)と跛行への思い( $\beta=.49$ , p<.001)(共に  $R^2=.42$ )であった。影響を与えていたのは社会生活への思い( $\beta=.23$ , p<.05,  $R^2=.05$ ), 股関節の満足度( $\beta=-.24$ , p<.05,  $R^2=.06$ )と術後の公的自己意識( $\beta=.22$ , p<.05,  $R^2=.05$ )であった。術後のモデルは適合度が  $\chi^2=12.251$ (df=10, p=.269), CFI=.99, RMSEA=.053 であった。術後の歩容の自己評価が影響を受けていたのは、歩行能力( $\beta=.49$ , p<.001)と跛行への思い( $\beta=.45$ , p<.001)(共に  $R^2=.69$ )であった。影響を与えていたのは全体的健康感( $\beta=.51$ , p<.001,  $R^2=.26$ ), 自尊感情( $\beta=.33$ , p<.01,  $R^2=.11$ ), 社会生活への思い( $\beta=.53$ , p<.001,  $R^2=.28$ ), 股関節の満足度( $\beta=-.60$ , p<.001,  $R^2=.36$ )であった。仮説モデルの信頼性と妥当性は確認でき、術前では社会生活の困難感を抱き、術後は術前に歩容に満足していた人ほど他者の視線を気にすることが明らかとなるなど、看護への示唆が得られた。

## 【審査結果の要旨】

歩容の自己評価は社会参加への意欲等に影響を及ぼす。本研究は、看護師が女性 THA 患者の歩容の自己評価の状態と影響要因についての的確にアセスメントし、社会参加への支援をタイムリーに実施することを可能にする貴重な研究成果である。公開審査会の質問では適切に回答していた。以上、学位請求者は本論文の論文審査及び最終試験の状況に基づき、博士(保健学)の学位を授与するに値すると評価する。